

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500405		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター清田 (1F 陽だまり)		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目2番6号		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ニチイの他のグループホームに比べ、近くに清田交番、清田小学校、せせらぎ公園があり、安全とふれあいと自然が身近に感じられる場所にある。また家族も清田区に住んでいられる方が多く、面会も多いため、ホームを終の棲家としながらも、家族との繋がりを大切にできる環境にある。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500405&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<服薬への支援>
一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について全ての職員が理解できるように調剤薬局の薬剤師を講師に招へいして、内部研修を実施し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。

<馴染みの人や場との関係継続>
本人がこれまで大切にしてきた馴染みの友人の来訪支援や理美容室の利用等で馴染みの場所との関係が途切れないように支援に努めている。また、家族と協力して、お墓参りやファミリーレストランでの外食、自宅での外泊等本人と家族の関係継続に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立した生活をおくれるように支援し、個々の記憶や思い出を大切に考え、家族や地域との繋がりを大切にします。	法人独自の理念をもとに、カンファレンスやホーム会議を通じて話し合い、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前のように、河川の清掃等に参加する機会は減ったが、せせらぎ公園に散歩に出かけた時に、近所の方々や挨拶を交わしたり、ゴミを拾ったりと現時点での自分達のできる範囲での交流を行なっている。	近隣住民による除雪や雑草採り、町内会のゴミ拾い参加や地元フラダンスボランティアの受け入れ等で地域との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献としての活動はないが、H24年3月末に「ニチイまつり」を開催し、地域に方々にホームを開放し、認知症の人の理解を深める活動を行う予定です。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、運営上の報告を行なっているが、最近では会議に参加している利用者様からの意見を取り入れサービス向上に活かす場もなっている。	運営推進会議は年6回を目安に開催し、薬の用法・用量等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者には、介護保険の更新や事故報告書の提出や各申請(消防署への直通電話設置の補助金申請等)などを通じ協力関係を築いています。	市担当者や包括支援センター職員との連携の重要性を認識し、日常業務を通じて連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員は、毎月のホーム会議等で、身体拘束をしないケアについて、学ぶ機会を設け理解しています。	身体拘束廃止について、法人研修会やホーム会議を通じて管理者・職員の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で、虐待防止キャンペーンを行なってそれを、ホーム会議で、さらに資料を使い全体の意識を高める機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域密着型サービスマニュアルを机の本棚の上に置き職員がいつでも権利擁護に関する事を閲覧できるようにしたい。また会社外の研修の機会があれば、参加を促している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内覧時も含め、契約の時も関連書類を読み上げ、疑問や質問に答え納得のうえ契約ができるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、電話連絡などの時に、家族の意見を聞くようにしています。頂いた意見は、ケアカンファレンスの中で話し合い、介護計画書の中に反映させています。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように法人独自のアンケートの実施や苦情等の受付箱を設置している。また、法人及び市町村等の相談窓口も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は、毎月開かれるホーム会議の中で話し合うが、最近では、業務はじめての申し送りの時などで、話し合いすぐに反映させている。	年2回の個人面談実施やホーム会議を通じて意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の業務の評価は、自己評価を含め年2回の評価制度があり各自がより良く働けるような条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、採用時研修や入社後の定期的な研修の機会を設けている。また、法人外では、将来の管理者としての実践者研修を受講する機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区には、GH管理者連絡会、在宅ケア連絡会があり、月1回の割合で活動を行なっている。(H23年度の主な活動は、徘徊・見守りSOSネットワークがありました。)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が困っている事や不安な事は、自分の言葉で訴える事のできる方は、良く聞きとめ、自分の言葉で表現できない方は、家族から聞き取り、入居の際の不安を解消に務めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧時や申し込みの時には、家族から不安な事や希望があるので入居までに必ず解決できるようにセンター方式やアンケートなどで、情報を得るようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極めその他のサービス(デイサービス等)の利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ホームでの生活やホームで過ごされている時間を共有し、人生を共に歩んでいると考え良い関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、自分達だけで利用者を支援できるとは考えず、家族との絆を大切にしながら家族と共に支えている関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が、ホームに入居される前の馴染み方(友人等)や場所(以前通っていた床屋さん)など、家族の協力を得ながら関係が途切れないように努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの友人の来訪支援や理美容室の利用等で馴染みの場所との関係が途切れないように支援に努めている。また、お墓参りや自宅での外泊等本人と家族の関係継続に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居の際は、職員や他の利用者との良い関係づくりをこころがけ、時々テーブルの席を変更する等話しやすい環境作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ホームで同じ生活、時間を共に過ごした方として、必要に応じ相談や支援に努めている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの過ごし方は、団体生活が基本だが、できるだけ本人の意向に添い、居室での過ごし方など本人本位にしている。	センター方式の活用に努め、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。今後は、さらにアセスメントを充実させ、職員間の情報の共有がより一層深まるように研修会等を予定しているので、その実践に期待します。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、できるだけ一人ひとりの生活歴や生活環境を家族から聞いて把握に努めたり、他の施設から移ってきた方は、相談員の方から、情報を頂いたり把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、3ヶ月毎のケアカンファレンスで見直し、日頃のケアに生かしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には、日々の生活の中で聞き取りを、家族には面会時の時などに話を聞くなど何気ない会話から意見を取り入れている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録の中から職員間でケアの事でアイデアを出しあったり、気づいた事で、介護計画の見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の希望があれば、職員が付き添い、散歩や買物にでかけたり、地区センターの催しへ出かけるなどの支援を行なっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	旧国道36号線＝地域資源と考え、毎年5月には、「あしりべつ桜並木通り」に出かけ、花見を通して春を感じてもらっています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の往診は、家族対応をお願いしていますが、家族が対応できない場合は職員が同行しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診等の医療連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回にホームに来る訪問看護師に利用者の処方された薬の情報伝達や相談を行い、医師に伝えてもらい、お客様の体調管理を行い適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師との連携により、情報を共有し往診の医師との情報交換や相談、急病時に対応して頂くように関係づくりを行なっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際は、重度化した場合における対応の指針を取り交わし、重度化になった場合の時の対応を医師と家族を交え話し合う機会を設けている。	早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を受講して、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯などは、地域住民の方々の協力を得られるように、顔なじみになるような関係づくりに努めている。	今月末にスプリンクラーの設置工事を予定している。また、消防署の協力を得て、年2回火災避難訓練の実施や火災自動報知器等の設備の定期点検も行われている。	今後は、緊急時に全ての職員が速やかに対応できるように一時避難場所の確保の周知や地域との協力体制について検討することを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉使いは、ホームでの生活、顔なじみの関係が深まるにつれて、なれなれしくなりがちなどで、定期的に職員同士で、注意、見直しなどの機会を作っている。	身体拘束廃止委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から本人の思いや希望を感じとれるように、話を聞いたり、こちらの押し付けではなく、何事も本人に決定できるように、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活は、集団生活ではあるが、自分のペース(入浴の時間等)で過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容をお願いしたり、家族の協力を得て外出の際に理美容院に連れて行っていただいたり、また衣類も、季節ごとに家族に補充していただいたり、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事では季節感や好みを取り入れたり、月1回の割合で出前(お寿司等)を頼んだり、トレイ拭きを手伝っていただいたりしていただくことを願っている。	一人ひとりの嗜好の把握や力を活かしながら職員と一緒に後片付け等行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取方法は、利用者の身体状況に応じ、形態(ミキサー食、刻み食等)やむせないように水分にとろみをつけるなど、個別に対応支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態を訪問歯科衛生士や訪問歯科医の協力を得ながら確認し、毎日の口腔ケアにいかしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の身体状況、生活パターンに合わせてできるだけトイレでの排泄にむけた支援を行っている。	排泄チェックで排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中で、繊維質の食材を取りれたり、また、訪問看護師、往診の医師との相談し、薬の調節や運動を取り入れたりと個々に応じた便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表で、週2回～3回の入浴の声かけを行なっているが、拒否があれば無理強いないで、時間や日を改めたりと個々の気持ちに配慮した支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2～3回を目安に支援している。また、拒否の強い利用者にも対応した支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて支援しているが、なるべく昼夜逆転が起きないように、日中に活動し夜は良眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の担当者を講師にまねき、薬の勉強会を開いたり、薬の成分などをインターネットで調べ、情報が共有できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機を使える方は、廊下の掃除機かけを、庭いじりが好きな方は、職員に庭の手入れの指導をして頂くなど、能力を活かした役割を持っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月、10月とワックスがけのため、一日ホームをあげなければならないので、毎年普段行けないような場所を、利用者の希望を聞きながら選び出かけている。	身体機能が低下してきている為、戸外に出かける機会は限られてきているが、散歩や外気浴等支援に努めている。家族と協力して、お墓参りやファミリーレストランでの外食、自宅での外泊等普段は行けないような場所への訪問支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社全体で、虐待防止キャンペーンを行なってそれを、ホーム会議で、さらに資料を使い全体の意識を高める機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙のやりとりは、希望があれば、家族と相談し自由にできるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにおいては、月毎のテーマを決め、季節を感じていただくような、飾り付けを行なっている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、季節毎の飾りつけや手作りの作品の掲示等が行われ、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファとテーブルをおき、利用者同士や家族と談笑したり、お茶を飲んだり、時にはオセロを行う場所として、自由に使ってもらっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの利用者が、家で使っていた家具や仏壇を持ってきて頂いて居心地よく過ごせるようにしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、仏壇や家族の写真等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの前の床には、目印をつけ場所がわかりやすいように、また居室の入口には、自分の部屋とわかるように、レクの時に作った絵や写真、人形などを飾り本人がわかりやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500405		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター清田 (2F くらみ)		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目2番6号		
自己評価作成日	平成24年2月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ニチイの他のグループホームに比べ、近くに清田交番、清田小学校、せせらぎ公園があり、安全とふれあいと自然が身近に感じられる場所にある。また家族も清田区に住んでいられる方が多く、面会も多いため、ホームを終の棲家としながらも、家族との繋がりを大切にできる環境にある。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500405&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らしていく為にホーム独自の理念を掲げサービスが実践できるように努めている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し河川の清掃やダンボールの回収区役所で行われる夏祭り等に参加し地域の方々に交わる機会を作っているが日常的交流までには至っていない		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献とまでには至っていません		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では運営等の報告やサービスの実際や行事等を通して利用者の生活を見ていただきそこで出された意見や評価をサービスの質の向上に活かしている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の事業所担当者や区の介護保険課とは報告や相談を通してより良いサービスが出来るよう意見が聞ける関係作りが出来ている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は対象となる具体的項目を勉強会等で行ったりしながら理解し身体拘束に当たるようなケアを行わないようにしている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の研修を始め社内外研修に参加し参加者は会議や勉強会での伝達講習を行い全体の意識を高める機会を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する資料を用いて常に活用できるようにしている職員は研修の機会があれば参加し学べる機会を作っている</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には関連書類を読み上げ疑問や質問内容を都度解決し納得の上契約を行っている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者へのサービス内容等ホーム運営についての意見苦情等は家族会やご家族様来訪時等に管理者職員共に把握するようにしている意見要望については全体で考え改善するように努めている</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する意見や提案提起はホーム会議やカンファレンスの機会に準備したりするが即決したい内容は随時業務の中ミーティングの時間を設け解決するように行っている</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者や職員の業務の努力や実績は自己評価を含めた評価制度があり、向上を高めやりがいのある職場環境をつくっている</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社では職員が育つ事を奨励しステップアップできるための制度が設けられている又採用時研修スタッフ研修の内部研修や資格者ひは実践者研修を受講する機会を設けている</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区には管理者連絡会があり活発な活動が行われている、活動を通し勉強会研修会、交流会が開かれ職員の向上への取り組みの機会となっているがGH同士の職員が交流する機会はまだまだ少ない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な事や困っている様子がないかを見極めると共に一日でも早くなれて頂けるよう努力している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり生活習慣や情報を得ると共に不安なことや要望を聞き入れ信頼関係を築けるように努力をしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際やカンファレンス等にて必要なサービスを検討しながら対応できるように努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と共に生活や人生の一部を共有していると考え日々の生活の中敬意を払いながら接している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は御家族様を支援している立場だけに置かず共にご利用者様支え役割を担える関係作りに努めている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や馴染みの会った方々との交流を続けて行える様に支援をしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し状況によっては席替えをしたりと関わりを多く持つように日々努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族様からの相談等には丁寧に 応じ関係性を大事にしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様の思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている外出や趣味の希望、御家族様との関係を調整して望みが叶うように配慮している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人ひとりのこれまでの大事にされていた生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用状況を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人ひとりの現状の一日の過ごし方、心身の状態や持たれている力などを総合的に把握してケアに活かしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時折家族や主治医にも意見を頂き、意向や役割の確認を行い本人本位の個別的プランを作成するようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に個別記録の中から職員間で情報を共有して毎日の生活を根拠にして介護計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、職員が付き添い通院や買物、喫茶店に出かけている。また地区センターなどの催しへ出かけるなどの支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の支援の為に、消防との関わりは持っているが他機関との協働体制は不十分である。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者が適切な医療が受けられるように、本人や家族の希望するかかりつけ医と事業所が良い関係を築けるように行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は訪問看護師に情報や気づきを伝え相談し健康管理や医療的な指示をもらいながら適切な早目対応ができるように支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には出来るだけ早期に退院だ下着るように家族や医療機関を相談しながらスムーズに退院へつなげられるように支援している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した際のホーム側の対応は比較的早い段階で主治医等の説明を受けて頂き家族やご本人様と話し合い訪問看護師や医療機関と連携処置を決定するようにしている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署の救命講習を受けてる又勉強会を設け初期対応の訓練を行っている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による総合的訓練を年2回行なわれその中では夜間想定訓練も行われている又非常食や緊急時の備品等の整備されている、運営会議で消防職員や近隣の方々に協力を要求している		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声掛け、対応法は社内外研修や勉強会を通じ職員の意識や質の向上を図り、誇りやプライバシー - を損ねない適切な対応を心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が日々の生活の中で自分の希望や思いを表出できるように働きかけ、自己決定が行われるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者が自分の家と思われ、出来るだけ自分のペースに合わせた過ごし方が出来るように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容が訪れ身だしなみを楽しまれたり、家族の協力を得ながら季節代わりの衣類を購入して頂きおしゃれを楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者様の嗜好や希望や季節行事にあわせたメニューで食事を楽しめるようにしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の確保は栄養バランスを考慮したものを各自の状態に応じた形態や量を個別に対応している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の口腔内の状況を把握し御本人様に応じた声掛け、ケアを行っている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の書く利用者様の状況に合わせた方法で排泄の自立を支援している。職員同士が連携して自立支援が行えるようにケアプランに載せ実線している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活で十分な繊維質水分摂取できるように献立を考えている又適度な運動ストレッチを取り入れた生活支援を行っている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用それぞれの希望した時間に好きな入浴剤を取り入れたり等して入浴を楽しんでいただける様に配慮している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣前日前後の状態に応じ生活リズムを整え今日を快適に過ごせるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを誰もがすぐ確認できるようにしているセットから服薬支援まで複数のスタッフで確認観察している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯物たたみ、お盆拭き植物の水やりなど役割として取り入れている。個別の楽しみとして習字や塗り絵遊びではゲームや歌などを楽しむ支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間のみ外出は制限されているが体力維持の為ホームで歩行訓練を行っている又冬季でも受診や買物の希望があれば職員が同行し安全な外出支援が出来ている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社規定にて金銭の所持は出来てないが事務所預かり金としてお小遣い金を説明させて頂き必要な時は使えるようにしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族さまや友人の手紙電話に関してはご家族様の意向で止められていない限りご利用者本位で支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、穏やかに居心地が良く感じられるように心がけている。五感に不快感を与えるものを置いたり、そのように思われるような状態にしないように配慮する。又利用者作成の壁飾りを廊下やリビングに飾って、生活感や季節感を感じられるようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではその時に応じて座席を移動したり窓側には2人掛けソファを置き、お昼ねをしたり気の合った利用者同士が自由にくつろげ安心感を持って生活出来るにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの家で使っていた馴染みの品を置き、安心感を持って暮らしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室には目印をつけて利用者がわかり易いように配慮している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域貢献の機会を増やす。	地域の人々に向けて貢献できる具体的な取り組みを推進していく。	ニチイ祭りを利用して、地域の人々に参加を呼びかけ、介護・医療の相談会を開催する。	6か月
2	29	地域資源との協働体制を作っていく。	地域との協力しながら、認知症について理解を得る取り組みを働きかけていく。	近隣小学校や児童館の子供たちと交流できるように働きかけるとともにボランティアの受け入れを増やしていく。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。